



# 含み損の拡大を どう総括するのか

角田 龍仁議員

議員各位もご承知であった市長

**問** 現時点で基金の含み損の発生額は。

**答** 令和7年12月末時点で、額面金額と評価額の差は約40億円。

**問** 令和8年度予算で、見直された事業は。

**答** 需用費や委託料などを含め縮減を行った事業数は広範囲に及ぶ。

**問** 各課の縮減目標はどのように示したのか。

**答** 一般財源の総額を

らかじめ設定する予算枠を部局ごとに設定した。

**問** 含み損により、予算財源が圧迫された基金運用方針の決定過程は。

**答** 副市長の決定を得ている。

**問** 最終決定は副市長といつごろなのか。

**答** 公金管理委員会での決定を得て、最終的に副市長の決裁を得る。

**問** リスク評価は十分であったか。

**答** 安全性の高い債券で運用したことは市の経営判断であり、一定の合理性があったと考える。

**問** 含み損が拡大したが、問題はなかったのか。

**答** 債権運用には国の金利の動向により影響を受ける側面があるので、そういった点から一定の合理性があった。

**問** 含み損の拡大について、市長は、この事態をどう総括するのか。

**答** 普通預金のみならず、債券などによる運用を行っていたことは、議員各位もご承知であった。

**答** 新たに設置する法定協議会で、2年をかけて地域公共交通計画を策定していく。

**問** 通勤通学の利用を考へ、長野県茅野市のような路線バス化、A・Eマインド交通を取り入れる考えは。

**答** 通勤通学を見据えた早朝深夜帯運行、A・Eマインド交通などの運行形態は、幅広い世代の利便性を高める有効な選択肢の一つである。

## その他の質問

●都市計画道路について

## 公共バスの見直しは

**問** 公共バスの大規模な見直しを行う予定は。



▲長野県茅野市の路線ルート